

第3回可児市地域公共交通協議会以降の経過

可児市デマンド運行検討会の設置

【検討会の目的・位置づけ】

デマンド運行の実証実験の実施について、関係者で協議・調整を行い、可児市として可児市地域公共交通協議会に諮る案をとりまとめる。

実験の結果を検証し、本格運行に移行することが適当であると判断されるときは、その運行案をとりまとめる。

【委員構成】

- ・ 関係する市民・旅客、可児市地域公共交通協議会委員、公共交通に関係する団体
- ・ 公共交通事業者（バス事業者、タクシー事業者、鉄道事業者）
- ・ 中部運輸局
- ・ 学識経験者

デマンド運行検討の経緯

視察（参考資料1）

・期日 平成20年8月13日（水）

・視察先 前橋市デマンドバス「ふるさとバス」

第1回デマンド運行検討会

・期日 平成20年10月22日（水）

・内容 講演会「地域の利用実態に応じた輸送サービスについて～遠野市のデマンド運行の設計経験から～」岩手県立大学助手 宇佐美誠史
「地域の交通を考える」京都府政策企画部企画総務課副課長 村尾俊道

公共交通事業者との打ち合わせ

・期日 平成20年10月22日（水）（第1回デマンド運行検討会后）

・内容 デマンド運行の実証実験について

デマンド運行に関するアンケート調査（参考資料2）

・時期 平成21年1月

・対象 デマンド運行に関して参考になるとと思われる13市町

視察（参考資料1）

・期日 平成21年1月27日（火）

・視察先 米原市乗合タクシー「まいちゃん号」

第2回デマンド運行検討会

・期日 平成21年3月17日（火）

・内容 川合土田線沿線でのデマンド運行実験案の検討
事務局が提示した案に対する主な意見は次のとおり

市の実験案について

- 土田地区ではITを使わない事務局案が良いと思うが、市全体に広げるにはこの方法では良くない。
- 可児市にとってどのようなシステムが良いか検討していくことが必要で、その場にあったシステムでよいと思う。今回の実験は進めることとし、今後可児市全体の有効なシステムについて検討してはどうか。
- 仮想ダイヤによる運行では運行の無理・無駄が生じる。
- 事務局の案は、狭いエリアに分割し、かつ乗車時刻をあいまいに受け付けることが条件となっているといえる。

- 他の公共交通機関と共存を図るために区域を分割するのは短絡的である。豊田市では路線バスを補完するかたちでデマンド運行が共存している例があるほか、PCシステムのプログラムにより競合を避けることも可能である。前橋市ではデマンド運行を赤城タクシーが請け負っているが、急ぎの場合は自社の一般タクシー利用を呼びかけている。
- 可児市に適合する交通システムを入れればよい。
- 他の事例はあくまで事例であるため、可児市の町の中のことと考えた方がよい。
- デマンドの利用を可児市にあったシステムを考えてほしい。また、色々な交通機関が選べるように、便利に使えるようにしてほしい。利用者の立場で考えていただきたい。
- 可児市民のモビリティ(移動のしやすさ)をどうしたいのかを決める必要がある。
- サービスレベルの達成の可能性の把握、予約受付 配車作業の実態の把握が必要である。
- 実験結果の評価指標を定量で決めておく必要がある。予算の制約なども考慮しなければならない。
- 評価基準をきちんと作ってすればよいと思う 失敗しても良いと思う 失敗しても次の改良に繋がる。検討して導入しても成功するとは言えず、導入してから改良すればよいと思う
- 実験の実施について住民に早く説明してほしい。高齢者も多いので分かりやすい説明をしてほしい。
- 実験の周知について、現在の川合土田線の利用者を失わないためのPRも必要である。またMM(モビリティマネジメント)の点から、普段クルマを使っている方にも公共交通利用を促進するような視点を入れてみてはどうか。
- MMは公共交通の利用を促す方策の1つであり、ある程度の輸送サービスとあわせて実施されるものである。今回は輸送サービスの向上を図ることが先でありMMは二次的なものである。

追加実験の提案について

- 事務局案での実験とは別に、前橋方式のPCシステムを使った追加実験もしてほしい。土田地区だけであればほとんど費用をかけないで実験実施が可能である。
- 追加実験により前橋方式のPCシステムは低コストであること、他の公共交通機関との競合を避けられることを実証すべきである。
- 運行費用については条件によって変わるので、より詳細な検討が必要。
- 前橋市のデマンド運行の費用は一見多額に見えるが、運行面積比では米原市とほぼ同等となる。
- 前橋市のPCシステム費用は、年間420万円で5年リースであるが、更新料を必要とせず、6年目以降はほとんど費用はかからない。また、システム導入費に国庫補助を受ければ導入費は半額になる。
- 前橋市がPCシステムを導入した後に、PC通信技術が発展し環境も変化しておりPCシステム導入経費は安くなる傾向にある。
- 可児市でPCシステムを用いるべきかどうかは、利用者数規模とサービスの自由度または地区分割を行うべきかどうか等の議論となる。デマンド運行の区域を分割しているのは、PCシステムの能力の違いもしくはPCシステムを導入していないことによるものである。
- 前橋市の運行事業者は「前橋市の規模であれば、予約配車は人手では無理でシステムが必要」と証言している。

その他

【可児市福祉の交通まちづくりを考える会からの提案】平成21年3月

- ・ さつきバスの停留所にある時刻表を分かりやすく、見やすく表示
- ・ 停留所や運行本数の増加、乗り換えの簡略化、所要時間の短縮
- ・ 電車やバスなどとの乗り継ぎの改善や料金優遇策の検討
- ・ デマンドバスの推進